

丸顔見た事無い皆長い物や、張倒すで、馬かて張倒されたら痛い顔で短う仕たいやろうが出来んで、氣の宜いもんや肩で笑ふてる、ヒヒン……奴畜生、馬は畜生に極つてる、臍節歪んでる、歪んでるので歩けるのや、眞直やつたら歩かれへんがな、あゝ云ふよつてに馬が動くねん、やさしいのが宜えと云ふて京言葉で馬を追ふてみ馬は動けへんで、チャイ／＼お歩きんかいな、何仕とおいるねんあんたはん長いお顔どすな、お足歪んどすえと云ふたら馬がそろどすかと云ふて寝て仕舞ふ、船でも退きなはれと云ふので船が動くねん、なア船頭はん」

「喧ましいわい」

「それみい、お前の爲に私まで怒られるがな」

「オイ船頭はん、早う出し」

「オイ出しますぞう……」

「蕎麥………餛飩」

「オーウうどん屋、鉢を揚げて仕まわんと破つて仕まふぞ」

「お客さん誠に濟みませんがお女中やで一人お頼申します」

「オイ船頭はんもう乗られへんで」

「其所を一ツお女中やでお頼申します」

「なんぼお頼申しますと云ふても此の通り一ぱいやがな」

「お女中やけ」

「なんぼお女中でも、もう此の上乗せるのなら酔をバラ／＼と振つてばらんでも敷きいな」

「壽しみたいに云ひなさる」

「壽しの様に詰てるがな」

「そこを一ツお女中やで」

「もしあないに船頭が頼んできます。お女中やと云ふてます乗せてあげまへう」

「乗せてあげまへうと云ふても乗られしまへがな」

「よろしい、貴方はんら大きい廣う座りなはれ、私は細う長う座ります」

「貴方一人細う長う座つても、這入る場所がおまへんで」

「私の膝の上へ座らします」

「あんたの膝の上へ」

「へエ、二十一二の奇麗な別嬪さんだす、足をボンと兩方へ割つて私の膝へ乗せます、モシ姉さん、寝むとうなつたら私の肩へ凭れて寝なはれ、そんな事を仕たらあんたの着物に油が付きます、私は貴女

